

ホンジュラスにおける 算数指導力向上プロジェクト（PROMETAM）での活動

上野 美奈子

（15-1，ホンジュラス，小学校教諭，牛久市立岡田小学校）

1 算数指導力向上プロジェクト（PROMETAM）の背景

ホンジュラスの初等教育には、留年があり、多くの子どもたちが、6年生まで進級できず、卒業できない。そして、留年のほとんどの要因が、国語と算数の理解力不足である。ホンジュラスの算数指導力向上プロジェクト（以下 PROMETAM とする）は、この算数における留年率を下げることを最終的な目的としている。そのためには、ホンジュラス現職教員の算数指導力を高めていくことが必要であった。なぜならば、子どもたちが、もっとも理解が難しいと感じている教科が算数であり、現職教員の基礎的な学力が低い教科もまた、算数だからである。

2 PROMETAM の概要

PROMETAM は1で述べたホンジュラス初等教育の背景を受けて、現職教員の算数指導力向上を目的としたプロジェクトとして発足された。PROMETAM は、算数の指導書を作成する「教材作成班」と、教員研修を行う「研修班」の2つで構成されていた。

「教材作成班」が目指す指導書は「どんな教員でもその指導書を使用すれば、同じような算数の授業を展開することができる」というものであった。「研修班」は、その指導書の具体的な使用方法や算数の知識を補うために、現職教員に対して研修（以下 PROMETAM 講習会とする）を行うことを担っていた。講習会は6つの地域で開催され、1つの地域で2～3人の隊員が活動していた。

PROMETAM 講習会の大きな特徴は、この講習会が短大や大学資格取得コースである継続教育プログラムの一つとして位置づけされていることであった。ホンジュラスの現職教員は、ほとんどが高校卒資格までしか持っていない。学校に勤めながら継続教育プログラムを受講して、短大・大学卒の資格を取得していくのが一般である。

3 活動の実際

（1）活動の流れ

任期の1年9ヶ月の間に、PROMETAM 講習会は3回行われた。1つの講習会の期間は2～3ヶ月。その期間中の各週土日約12日間、時間にして約50時間の授業を受け持った。1つの講習会で1学年分の内容を扱い、私が担当したのは3年生、1～3年生全般、4年生であった。

講習会の前は、PROMETAM の隊員・シニア隊員・専門家が首都に集まり、準備会議を行

った。6地域で行う講習会の内容に差が出ないように、その回の講習会で重視する内容、流し方を中心に話し合った。講習会後は、ホンジュラス人スタッフも交えて、講習会の運営の仕方、授業内容等について反省を持った。このような会議のために1～2ヶ月に1度のペースで首都に行かなくてはならなかったので、首都から離れた地域で活動している隊員にとっては、移動に時間をとられ、時間的にも体力的にもなかなかハードなものがあった。

講習会や会議を除いた時間は、自己研修・講習会の準備に充てた。また、それと平行して、任地の小学校を訪問し、算数の授業観察を行った。ホンジュラスの算数の授業の実態を知ること、講習生が、どれだけ講習会で学んだことを現場で活かすことができているかという講習会評価を、授業観察のねらいとした。

（２）講習会

①授業を行う難しさ

○言葉の壁

当然ながらスペイン語で授業をするということは、難しいことであった。活動前に語学研修を受けているとはいえ、任地に赴任して間もない頃は、台本を読むような授業しかできなかった。突然の質問、自分の予想外の講習生の反応に何度も冷や汗をかいた。

○日本人の授業への不安・不信感

先にも述べたように、この講習会は、現職教員のための短大・大学資格取得コースの一つとして位置づけられていたので、講習生が、日本人の授業を望んで受けに来ているわけではなかった。単に資格を取得したいと思ってコースを受講した中に、たまたま日本人の授業があったというだけである。だからなぜ、自分たちがスペイン語もろくにできない、年齢・教職経験数も若い日本人に算数を教えてもらわなくてはならないのかという不信感が、授業を行っていても伝わってきた。それがまた、授業を行う上で大きなプレッシャーとなった。

○ホンジュラスの現職教員の算数知識の低さと、講習内容の多さ

ホンジュラスの現職教員の算数の基礎学力は、日本の小学生よりも低いかもしれない。小数や分数の概念・小数や分数の大小等、まったくわかっていなかった。そして、間違った知識を平気で学校で教えていた。そのような講習生に短い期間で、1学年分の内容を伝えるのは、本当に至難の業であった。その上、私が受け持った地域は、ホンジュラスの中でも基礎学力が低い地域であり、ラテン色も強かったので、やる気を起こさせるという点でも大変であった。

○ホンジュラスの国民性（時間・きまりのルーズさ・カンニング）

ホンジュラス人は、時間やきまりに対してとてもルーズである。授業の開始時刻に遅刻したり、休み時間の後なかなか教室に戻ってこなかったりというのが度々あった。教室に飲み物や食べ物を持ち込み、飲みながら食べながら授業を受けようとする講習生もいた。驚くべきことは、カンニングが当たり前ということである。講習会の一番最後に単位認定のためのテストを行うが、講習生はテスト勉強よりも、どうカンニングをするかという相談のほうが、熱心だったかもしれない。

②心がけたこと

○名前を覚える・名前で声かけをする

いい授業を行うには、講習生とのいい人間関係を作っていくことが何より大切である。日本人授業への不信感を取り除く意味でも、まず、信頼関係作りに力を入れた。当たり前のことかもしれないが、40人の講習生の名を覚え、できるだけ授業の中でも名前を読んだ。また、授業以外の場面でも、講習生に声をかけ、コミュニケーションをとるように心がけた。

○あくまで先生という立場

どんなに仲良くなっても、講習生の時間・きまりのルーズさには、あくまで先生と言う立場をとり、厳しい態度で接した。カンニングに対しても、座席の指定、座席の間隔を広く取る等して、物理的にできないように工夫した。

○リーダーを作る・グループ学習

すべての授業内容を全員が理解するような授業を行うことは難しい。そこで、グループ学習を取り入れ、講習生がお互いに教え合う雰囲気づくりに努めた。その日のリーダーを決め、授業の中でも隊員の協力をしてもらった。日本人の説明だけでは全員の理解が難しいとき、理解した講習生が隊員の代わりに説明をするといった場面も出てきて、授業がスムーズに展開できるようになった。

○内容を詰め込みすぎない・簡単なミニテストで自信を

受講生のやる気が損なわれないように、授業で取り扱う内容を出来るだけ厳選し、見てすぐ理解できるような視覚に訴える教材作りに力を入れた。また、簡単な確認テストを繰り返し行い、全員全問正解することで達成感を味わわせ、自信に繋がるようにした。

(3) 授業観察

講習会と同様に重視した活動が算数の授業観察である。授業観察に行くことは、ホンジュラスが抱えている算数教育の問題を知る上で、大変役だった。また、自分たちが行った講習会の成果を感じることもできて、自分たちの励みにもなった。

講習生40人全員の授業観察に行ったが、どの講習生も指導書を読み込み、教材研究を熱心に行ったことが伺える授業であった。もしかしたら、そのとき限りの授業だったのかもしれないが、ホンジュラスの教員は、他の人に自分の授業を評価され、そのために熱心に教材研究をすることがないので、それだけでも、教員にとっては大きな意味をもつものになったであろうし、授業に対する意識も変わってきたのではないだろうか。授業を見終わった後の、私からの感想・アドバイスにも熱心に耳を傾ける姿が見られ、授業を評価する大切さを感じた。

4 課題

PROMETAM で作成した指導書が全国配布になり、PROMETAM 講習生以外の教員も使用することになった。資格取得コースとしての講習会が、昨年11月に終了した今、いかにこの指導書を授業の中で活用していただろうかが、課題となる。そのためには、PROMETAM

講習生のように、指導書を熟知しているものが、他の教員に伝えていく役割を担うことが必要となってくる。そういったホンジュラス人の指導者の育成を支援していくことが大切なのではないだろうか。また、各教員の授業を評価したり、教員同士が研修するシステム作りの手助けをすることも、これからの PROMETAM の役割になるのではないか。

ホンジュラス 算数指導力向上プロジェクト (PROMETAM)での活動

15年度1次隊 上野美奈子



PROMETAMの背景

- ホンジュラス初等教育の留年率の高さ
(国語と算数が主な原因)
- 現職教員の算数の基礎学力の低さ
→ 現職教員の算数の指導力向上
- 旧算数プロジェクト(個人派遣)の成果の限界

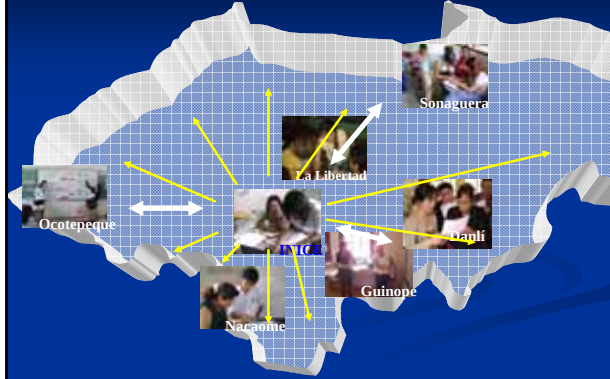
PROMETAMとは

- 教材作成
- 教員研修(PROMETAM講習会)
[短大・大学資格コースとしての位置づけ]

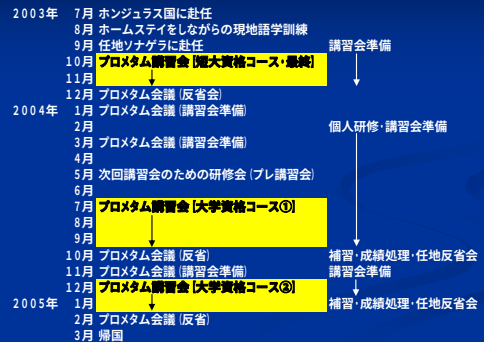
教員用指導書



教員研修 (PROMETAM講習会)



活動の流れ



授業観察
↓
授業観察

授業を行う難しさ

- 言葉の壁
- 日本人の授業への不安・不信心
- 講習生の教員としてプライド
- 現職教員の算数の知識の低さ
- 講習会内容の多さ
- 任地ソナゲラという地域性 (他の地域との差・評価)
- ホンジュラスの国民性 (時間・きまりのルーズさ、カンニング)



心がけたこと

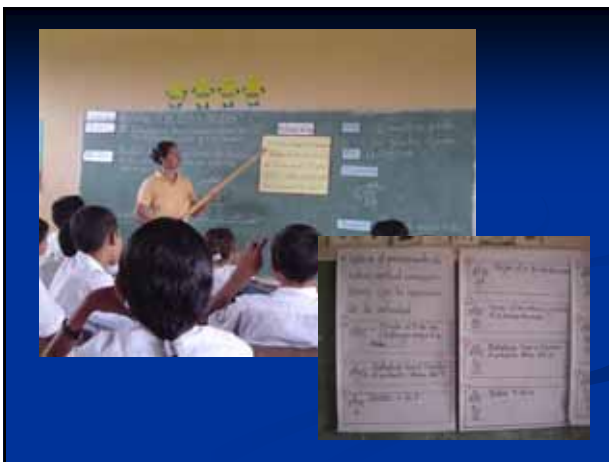
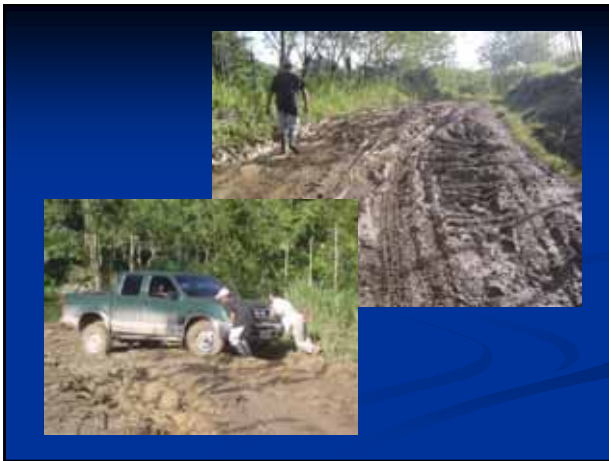
人間関係づくりと効率的な授業

- 名前を覚える・名前前で声かけをする
- あくまで先生という立場・服装・隊員同士の呼び方
- 詰め込みすぎない・簡単なミニテストで自信を
- リーダーを作る・グループ学習
- 視覚に訴える教材・板書



授業観察





課題



- 現状 講習会終了・指導書の全国配布
→いかに指導書を活用させるか
- ホンジュラス人の指導者の育成
 - 授業の評価・教員同士が研修するシステム



ありがとうございました